

るところのものは總べて是れ環境であります。然り而して其所謂環境なるものが兒童の品性形成上に至大の感化を與へ、至大の影響を及ぼすものなることは、古人の史傳の明かに證明するところで又争ふべからざるの事實でありますから、古來山河の秀でたる國に偉人のあるならひといへるが如きも蓋し這般の消息を道破したるものでありませうか、古孟母が三遷の教ありしといふが如きも、亦此環境を顧慮したるものに外ありませぬ、殊に日常兒童に接觸する人物の性格言語動作等の影響感化に至りては更に大に著しきものがあります。若し夫れ常にヒステリー症の人に養育せられたらば、其兒童は纏てヒステリーの性質を有するに至り、或は又平素神経質の人に接觸しましたらば、其兒童は又纏て神経質の人たるを免れませぬ、其他飲酒家に養はれたる兒童が、直接道徳上の缺點を傳へ、間接に生理的發達を阻害せらるゝが如き、冷酷なる繼母に養育せられたる兒童の冷酷殘忍なるが如き、圓滿ならざる家庭に育ちたる兒童の執拗不平家なるが如き、將た又両親の愛憎偏頗の兒童に及ぼす結果の如き、何れも眞に驚くべき現象を呈するのであります。

世に若し照魔鏡なるものゝ存在を許さば、蓋し兒童は環境に對する好個の照魔鏡たるを失はぬのでありませう。以上之を要するに、不良なる環境が兒童の感情生活と道徳的品性との上に及ぼす害毒の如何に恐るべきかを叙して、環境が低能兒育成の一大原因をなすの例證とせるに外ならぬのであります。さて世の父たり母たるもの、此自然の照魔鏡に對して、果して愧づるところなきを得るでありませうか。然れども思へ。既に不良なる環境が低能兒育成の一大原因たるの事實なるを認めたる以上は、吾人は又其反面に於て、善良なる環境が低能兒救済上の一活路たることを認むるの決して誤謬にあらざるべきを信するものであります。若し夫れ之を例證せんか、轉地療養即ち是れであります、轉地療養は其環境の變化によりて、病者の心身に影響を與へ以て其效を奏せむとするのであります。更に又他に向つて例證を求めむか、所謂轉人療法是れであります。林間學校も亦是れであります。

轉人療法が獨英米等の諸國に行はるゝに至つたは未だ近來のことであります。是

れまた其環境の變化によりて兒童の病を療治せむとするもので、轉地療法のそれの如く其土地を轉ずるにあらすして、其周邊を圍繞するところの人物を轉ずるものであります。

由來兒童の環境中最も有力なる感化影響を與ふるものは人であります。従つて其人の變換交代により、兒童の心的作用を一變し、隨て茲に療治の端緒を開かうとするのは、寧ろ當然の策ともいはねばならぬ。

林間學校の設けられしも近年の事で又獨逸、英吉利、米國等の先進國に於て日に隆盛に起きつゝあるのであります。特に熱鬧なる市街を離れて松風颯々たる林間に學校を設け、麗しき自然の風光を環境として教育を施すを以て、最も其異なりとするのであります。

其教育法の如きも亦頗る理想的にして、或は十分なる營養を給し、或は二時間餘の午睡をなさしめ、若しくは一學級の定員を減少して、廿人乃至廿五人となし尙且つ兒童の疲勞問題を考慮して教授の一時時間を二十五分間となせるが如き、其他訓練方面に於ても常に兒童の心情を平靜ならしめむが爲めに罰を施さず、叱責を

加へざる等、眞に至れり盡せりの觀があります。従つて其成績の顯著なること驚くべきものありとのことであります。

蓋し心身双關の理は萬人の認むるところ、彼の語に健康なる精神は健康なる身體に宿るといふが如きは、三尺の童子も口にするとおろにして敢て怪しむにも足らざれど、彼の歐米諸國に於ける最新の傾向として、教育と醫療上の研究とが互に相接近し、互に相補益するに至りたるの一事は、世の父兄たるものと、吾人教育に其職にある者との最も注意を拂はざるべからざる現象であるといはねばなりませぬ。

五二、低能兒 (其三)

(三) 教育より來るもの

世には英才あり鈍才がある。而して其原因するところを問へば人は直ちに目して之を天才となし遺傳の結果となす、しかも其多くが教育の悪結果なることを知らざるに至ては眞に慨歎せざらむと欲するも能はずであります。

然らば即ち何をか教育の悪結果といふ、蓋し過ぎたるは猶及ばざるが如しで、教育も其適當なる度合に於て、之を施せばよく其天才を發揮し、其遺傳の悪風をも矯正して、愈完美の域に達せしむること勿論でありますが、若し夫れ其程度を超えて、兒童をして過重なる負擔をなましむるが如きことあらむか、其結果や即ち悪結果にして兒童心力の發達を害し、其向上發展を阻害すること必せりであります。

然れども其結果たるや、直接觀面に現はるゝものでありませぬ、其經過は徐々としてしかも其事たる無形に屬するから大方の父母と教師とは、多くは此點に注意を拂はず不知不識の間に於て兒童の課業を夥多ならしめ、器械的の記憶を強ひ適適其成績の可良なるを見るや、曰く吾が兒は英才なり、吾が生徒は優等なりと、以て其將來を圖らず、得々然たるものゝ如きは思はざるの甚しきものであります、茲にいたりてか吾人は彼の楚人の苗をひきのばしたるの愚を想起せざるを得ないのであります。

由來疲勞とは神經細胞に有毒素を生じ、其整列の不正を來したる状態をいふので

あつて、其疲勞の回復する時には細胞の整列舊に復して正しくなるべき筈であるが前記の弊に陥りて平素過勞に過勞を重ねたる結果は、遂に細胞の整列不正となりたる儘、舊に復せず、繼て反應を失して茲に低能を生ずるに至るのであります、其他食慾を減じ頭痛を起し、物に感じ易く、注意薄弱となり、鼻血を出し、幻覺を生じ精神勤勞に堪へざるにいたる等、亦此過勞に因を發することが多く、而して其悪結果の現はるゝ時期に至つても一樣ならず、六才頃に原因せるものが、十才乃至十五才頃にいたりて低能を現はすことが少くないとの事でありませぬ、誠に恐れて慎むべきことではありませぬか吾人は思惟す、彼の所謂苗にして秀でざるの不幸兒は總て此種の悪結果より生じたる産物に非ざるかと、蓋し

十で神童十五で才子

二十才すぐればたいの人

とは最もよく這般の眞理を道破したものでありませう

然り而して此弊たるや、所謂放任主義の家庭に於ては決して起るべきものではない。多くは嚴格主義干渉主義の家庭に於て現はれるのであります。なまじひ教育

思想の發達した家庭に於て之を見るのであります。兒童の教育に對して注意の行き届き過ぎる家庭に於て起る現象であります。名譽心と虛榮心とに富んだ家庭に於て起るところのものであります。

是を教師の側よりいふも亦然りて、親切すぎる教員、兒童の出來榮を以て自己の手柄を誇らむとする教員、何事も己れの鑄型に當て倣めむとする教員、無暗に宿題を強ふる教員等は何れも此種の低能兒養成者たるを免れ得ないのであります。如何となれば彼等は只智力其物に専らなるところから、自然兒童心身の發達に留意することを忘却して次第に其程度を進め、結局兒童の負擔を過大にし、遂に其能力を阻害するにいたるからであります。

しかも此種の家庭と教員とは獨り智的方面にのみ止まらず、訓練方面に於ても亦此弊を遺憾なく曝露するのであります。即ち或は軍隊的となり或は監視的となり。或は警察的となつて、其極遂に兒童の美しき天真を害ひ、麗はしき感情を破壊し延いて其發達すべき萌芽と嫩葉とを萎靡し枯死せしむるにいたるのであります。如上記し來れば幼年期及び少年期に於ける教育過度の齎らし來るべき惡結果の如

何に大なるべきかは極めて明々白々なれど、さて實際は決して然らず、其恐るべき惡教育は極めて美しき假面を被りて現はるゝを常とするものなれば、其識者の笑を招くべきことなるにも係らず、俗人よりは寧ろ大歡迎を受け、大喝采を拍するに至るのであります。

茲に於てか此種の惡教育は實に侮るべからざる勢力を以て公々然として天下に流布し、其害毒を逞しうして居るのであります。世の父母たり教師たるもの大に茲に注意を致さねばなりません。

吾人は茲に此項を終るに當り顧みて上記三目を案するに第一遺傳はいふに及ばず、第二環境、第三教育、何れも殆ど全く父母の責任たることが明かであります。語を換へて言へば世に低能兒なるもの、生ずると否とは全く其父母たるもの、責任に歸するのであります。父母の責任も亦重い哉。

五三、 勞作に慣れしめよ

勞を厭ふものは、決して世の上流に立つことが出來ないのみならず、一旦不幸な

目に逢うた時は、人の世話になるか、餓死するか、二の外に出づることは出来ません。これに反して、よく勞役に慣れて居る人は、縦令如何に零落することあるも、自ら自活の途を求めて、人の厄介になる様な、意氣地のないことはいたしませぬ。

或は言ふ人がありませう、我家は、巨萬の富を重ねて居るから、子孫代々寝て食つて、居た所が、家の財産に穴を明くる様なことはない、或は然らん、併し榮枯盛衰は免る可からざる數であります、まして、天災地變の如き、人力もて如何ともすべからざるもの、多い世の中において、決して、子々孫々末の世までの榮華を豫定して置くことは出来ませぬ。縦令かゝる不吉なことが起らないまでも、よく勞役に慣れて居れば、困難辛苦を何とも思はぬ所から、祖父の財産を數十倍にすることも、大學者大政治家大工業家等となりて、家名を擧ぐることも、極めて易々たることであります。この故に、子孫の榮華を思ふものは、借家を多く作つて置くの、生命保険に入つて置くのと言ふよりも、子供に榮華の資本たる勞作を好むの習慣を養うて置くことの方が遙に確であります。さて然らば、子供

に勞作の習慣を作るには、如何にしてよいかと言ふに、決して、砂利を擔がすことも車を引かすることも入りませぬ。たゞ、日常に起る事について、子供の力の及ぶかぎり、於て、成るべく、他人の助けを藉らず、自分手に爲し遂ぐる様に導くので十分であります、例へば、室内の掃き拭ひをさせること、庭園の取り片づけをさせること、風呂の火たきをさせること、身の装ひを自らさせること、辨當學用品を自ら仕未させること等の様なものであります。

學校でも、上に述べた様な考からして、掃除もさせ、當番もさせ、植物園の掃除もさせ、然るに、子供が家庭へ歸りてからは、召し使のものが數多あつて、然る必要がない所から、とんと斯様なこともさせないところがあるのであります、斯かる家では、別に仕事を考へてこれを子供に責め、また、働き人のない家では、學校でさせる様に働かすといふことが、この勞作を好む習慣を作るに緊要であらうと思ひます。

五四、規律に慣れしめよ

日本人は、不規律であるといふことは、外人も言ひ、我國人自らも認めて居る處であります、實際勉強するのやら、遊んで居るのやら、起きて居るのやら寝て居るのやら、分からぬ様なものを、私共もよく見受けます、聞く所によれば、西洋人は、一日の労働時間数は、日本人よりも少いけれども、仕事の出来上りばえは、倍にも上るといふことであります、これは、西洋人は、遊ぶときと勤むるときとをよく區別し、遊ぶときには、吾を忘れて遊び、勤むるときには、一生懸命に働くからのことであらうと思ひます。

更に、時間の上から言ふも、西洋人は、時は金なりといひて、少しも無駄に時間を費すことがない、これに反し、日本人は、時間を正しく守らないで、他人に無駄な時間を費やさせたり、自らも時間を徒費することが甚だ多くあります。日本人の缺點を補ふ上から言ふも、各個人の利益の點から見ても、規律と云ふことは忽にすべからざる一事であります、そこで學校などでは、何れも皆、規律と

云ふことを努めて居るが、家庭では、動もすれば注意せられぬことがあります。……勿論、規律として、兒童に出来ぬ様なことを責めよといふではありませぬが、寝起の時間登校の時間他人と約束した時間などを正しく守らせ、又、遊ぶときには遊ばせ、復習させるときあるひは父母兄弟などより言ひ付けた仕事をさするときには、外見もせず、一生懸命にする様に慣らしさへすればよいのであります。

五五、質素に育てよ

富家に生れたるは、幸か不幸か、甚だ疑はしい、言ふ心は、富家に生るれば、思ふ通りの甘いものはたべられ欲しいと思ふ奇麗な着物は即座に新調して貰ふことが出来、何一つ不足がない、外から見れば大へん幸福な様に見えますが、よく細かに立ち入つて見ればさうでない様な氣味がいたします、一體、人の慾と云ふものは、「思ふこと一つかなへばまた二つ三つ四つ五つ六つ七つかしの世や」と云ふ歌の如く、限りのないものであるに反して、各人の金力と云ふものは、限りがあれば、王公と雖も不如意の嘆は免れませぬ。して見れば、自ち不幸と感ずる折も無いと

いふ譯には行かぬ、かつまた、人の楽しいと思ひ、悲しいと感ずることは、凡て比較的の事情より起るものでありまして、百圓金を持つて居る人が、千圓貰うたよりも、一錢持つて居る人が、一圓貰うた方が、餘程嬉しく思ふ、同じ例で、毎日麥飯を食うて居る人がたま／＼米の飯を食う方が、毎日饅頭を食うて居る人が、たま／＼西洋料理を食うて見るよりも、餘程甘く感ぜらるゝ。されば、常に美食ばかりして居る人、美衣ばかりを着て居る人が、楽しく思ふてばかり居るといふ譯に行かぬ、却て、粗衣粗食をして居る人が、たまに絨縮でも着て見、饅頭でも食うて見た方が餘程幸福に感ずるのであります。

子供の將來を思ふ人は先づこの邊に氣を留めねばなりません、榮枯盛衰常ならぬ世なることは、前に述べた如くでありまして、一旦不幸のあつた時に、西洋料理でなければ喉を通らぬ、絹布でなければ身が寒いといふ様では、飢餓を免れませぬ。われ／＼が實見した所だけでも、この例は少なくない、嘗て、某國の豪農、維新の際に、不慮の事よりして、田産を失ひ、食朝夕を憂ふる様な境遇に陥いたことがあるが、それでも、寢衣だけは絹布でなければ眠られぬと言つて居た、さ

て貧はます／＼追りて遂に袖乞となるに至つても、貰うたものが、少し香の悪いときは、其儘捨て、食はなかつた、余は、この人が、富家に生れたは、却つて、不幸の種であつたといふことを感じたのであります。又かゝる不運の場合に備ふるためでなく、質素に育つて居ると、無用の金をより多く有用に費すことが出来て、富者は益々富み智者益々修養の資を得、其益する所は、たゞに一個人に止まらずして、延いて社會國家に及ぶのであります。この故に眞に愛兒を思ふものは徒に一時の見えのよいのに目を奪はれないで、遠く將來の幸福に目を注ぐべきであります。

五六

營養に注意せよ

營養のよい子供は頬の邊りがふつくりとして、赤味を帯びた顔色で常に樂しうな顔付をして、ピン／＼と、跳ね廻つて居る所から身體は益々健康になります。がこれに反して營養の不良な子供は、青菜の様な顔色をして樹の下や薄暗い所に引き込んで、晴れやらぬ顔付をして愚圖々々して居る所から身體が益々悪

くくなります。

營養のよしあしはたゞに身體の健全に關係を及ぼすばかりでなく、また子供の精神の上に影響して、學問や氣質に大きな差異を來さるのであります。營養のよい子供は身體の工合のよい所から氣分がよく、遊ぶにも學ぶにも元氣よくする故上達が著しい、又その活力が餘るところから時には叱られる様ないたづらもするが、そのやり方は極々悪げがない、人が己に向つてどんな顔付をしようがどんな素振をしようが、關つたことなく嬉々として笑つて居る、又よく人に懐き人を信ずるよい氣質のものになります。これに反して營養の悪い子供は、氣分のとかくに勝れぬ所から、何事をもさせても愚圖々々として居つて歩らす、神經は過敏になつて人のすることが妄りに氣に觸り、些細のことにも怒り泣き、誠に致し方のないものであります、その外妬む猜む疑ぐるなどの悪い情はその原因を尋ねて見れば、この營養不良といふことに歸することが多いのであります。かく營養の身心の上に及ぼす所の多いの思へば、誰人も營養の忽にすべからざるものであるといふことに氣付くでありませう、されど營養はよくせよといつた

からとて珍らしいものを澤山食べよといふのではありませぬ、價が安くても滋養になるものが澤山ある、また味のよくないものだからと多量に食べてそれを消化さへすれば養分になる、それ故まづ滋養分に富んで居る食物を選んで、消化し易い形にして時間正しく多量にたべさせて、それを消化する様に運動させる工夫をすればよいのであります。

五七、 心身を鍛へしめよ

昔から『可愛子には旅をさせよ』といひて難儀な目に逢はせて心や身を鍛へさせることが、子供の將來の爲に必要であるといふ心を表はして居ります、而してこれが中學時代以上の子供であつたならば、自ら困難な仕事を見付け出して、自力試しをしよう、心身を鍛らうといふ考を起すが、小學時代の子供に向つてはさう言ふ智識を望むことが出来ませぬ所から、家庭教育の任に當つて居る人に注意を求めねばならぬのであります。今暫らく小學時代の子供の鍛へ方につき言ひませう。

先づ心の鍛錬から始めませう……心を鍛錬るといふことは早くから始めても害のないものであります。かの雷を恐れる暗を怖がるなどは、殆んど生れ付きて大抵の子供には有り勝つこととありますが、これも慣しかたによりて、何とも思はぬ様に馴れることが出来るのであります。然るを往々これを威し道具に使ひ、子供に泣き止むる爲に、「ソレ暗い所へやるぞ……」「暗がりからモモンガが出て来るぞ……」「ソレ雷さまが鳴る……」「雷が光る早く頭を隠せ」など、益々氣を弱くして終ふことが多いのですが、それは心なき仕業の一であると思ひます。現に余が知人某に三人の子供がおりますが揃ひも揃つて大膽で雷鳴や電光や暗などは何とも思ひません。これは全くその父親なる人の躰け方によるので……父親は常に子供が雷鳴を怖がる時には自ら抱いて庭前に出て、「ソラ見よ今に雷が落ちて来るぞ……落ちてたらは捕へてやれ」「ソラ彼所で光つた今に此方へ光つて来る……来らばつかまへてやれ」と、子供のびく／＼して居るのもかまはず、雨の中へ曝らして居ります、また夜分などに子供が便所へ行かうと言へば「獨りで行つてお出……便所には燈があるから明るい……道には何にも居はせぬ、も

し居たらつかまへて持つて来い……お母さんをお伴につれる様な弱虫は日本男兒ではない……早く大きな聲して唱歌を歌つてお行き」と言ふ様に極めて氣達者に育てました。それ故この子供は夜分提燈も持たずに暗い中をお使ひに出て平氣に用を済まして来るのであります。これが子供の心を鍊へる一つであると思ひます。次に子供にはとかく危険を冒す傾があります、試に子供を伴れて散歩して御覽なさい、彼等は寄らでもよい橋の縁を通つて見たり、橋のあるのに無理に小川を飛越えて見たり、石垣の上に攀ちて飛び下りて見たりして各々自分の力試しをして居ります、これも氣力を養ふ一で軍人の機械體操の様なものでありますから危険のない限りは放任して置くべきもので、餘り干渉して弱虫を作らぬ様にせねばならぬことと思ひます。次に子供には爲し始めた事は、必ず爲し遂げさせる習慣をつけねばならぬと思ひます、世に意志の教育など説く人は、いづれも皆思ひ立ちたることを遂行させることが唯一の方法であると考へて居る様であります、勿論初め思ひ立つた事でも

心を鍛へしめよ

後に不利な仕事であると氣付くこともありますが、これは無論中止すべきものとして、幾度考へても害がないといふ事柄は、よし其事柄は些細にしても、必ず遂行させねばなりません。たとへば或日曜を期して或所へ伴つて行かうと約束し子供も行く氣になつて勇んで居ります、さて其日になつて、途中まで出かけた所が雨に遭つて歸宅を餘儀なくせられたとしたらば、其次の日曜か、それも亦都合わるくば、また其次の日曜にするとも、早晚遂行ねばなりません。斯く言へばちよつと猪武者を作れといふ様に聞ゆるが幾度考へても善と思ふ所に猛進するは決して悪いことでないのみならず、意志を鍛練する唯一の方法であると思ひます。第二に身體の鍛練について少しく述べませう。これは幼少な子供には、當てはむることが難いのでせう、特に生來病弱な子供には強ふることが出来ませんが、十歳となり十一歳となりて、骨組も出來身體の凡ての機關も一通り揃つて或る強さに達した時には、そろ／＼と始めることができませう。勿論この中には幼稚園時代の子供からして慣らすことの出来るものもありません例へば、手水は寒中でも冷水を使用はせることゝか、寢起の際に冷水に浸した手拭で全身を磨擦することなど

はこの類であります、其他になりませうと子供の身體の健否と年齢とをよく斟酌せねばなりません。

身體鍛練の一として先づ寒さに慣れさせよといふことが必要であります、子供は風の子といふ諺の如く子供は寒風に曝されるのを何んとも思ひませぬ、手は氷の様に冷めたくしかも霜凍の爲に膿血が、だら／＼と垂れてをるのもかまはず水なぶりをして居ります。細民の子供は着物も薄いから寒風は一層激しく然も其はげしい寒氣中に練へられて居る所から細民の子供に風を引くものなしで適鼻水を垂らすも捨て、置けば何時の間にか直つて終ひます。これに反して富家の子供は餘り大事にし過ぎる所から風ばかり引いて居ります家に居る時は暖爐の傍に酸漿の様な顔をして踞つて居り、學校に出る時には綿入三枚も重ねた上に、綿入羽織襟巻頭巾で堅め込んで、寒氣の胃し入る隙もない様にして居りちよつと、便所へでも行つて裸體の一部を外にでも曝すと、忽ちくしやみを出して、「ソレ大變」と直に醫者を迎へる、身體は薬に慣れる、こんなところから、どんな軽い病氣でも薬でなければ直らぬといふ様になつてしまふのであります。

襟巻や腰蒲團は（女子の外）現今何れの學校でも禁じて居りますが或る西洋の教育家は靴は薄き皮を用ひ彼等が水邊に遊ぶ際に水が自由に進入する様にせよとまで論じて居ります。この足を冷やすことは現今の醫師は堅く禁じて居る所でありますから、さうする必要もありませんが、とにかく寒氣に慣れさせることの必要なるは何時の人も一樣に認めて居ります。

暑氣に於ても亦堪へさせるといふことが却つて身體の鍛錬になります。勿論炎天に何も被らずに歩かすといふことは衛生上からよくありませんから止めなければなりません。洋服が暑苦しいから、靴穿は暑さうだから、暑い中を歩くと悪いから車に乗せるといふ様なのは、却つて子供を弱くする種であると思ひます。何暑い汗が出るのといふことは出来るだけ忍ばせて何の苦にさせぬこと、かの兵士の様に慣らさなければなりません。暑いがいやだ、汗の出るがいやだといふ様では身體の上から見ても心の上から言うてもよくありません。次に、飢やすといふことであります。三度三度に腹一杯に食べさせた外に日の長い時には、時をさめてさへやれば間食をさせるのもあまり害がありませんが、其

他に於ては一切食はせぬがよいとおもひます。然るに「お母さん何か」と求むる度に何かやるといふのはよくありません、かう言ふ際には母親は鬼になつて子供を飢ゑさせてやるつもりで何も與へぬがよいのであります。亦用事の都合で何時もより夕飯が後くれる時に子供がねだる様なことがあつても、威嚴を以て抑へてしまふのがよいのであります。これが却つて飢饉を忍んで事に勇むといふ良習慣の基となるのであります。

また、飢やすことの反對に、飽かすといふことも必要であります。一體常則としては食物は八分目といつて今一口といふ所で控へて置くといふことが最もよろしいといふことであります。何時も何時も衡にかけ、升で量つた様に、さまり正しき量を食べさせてばかり置くと、胃の腑の大きさが一定して、少しでも餘計に食べると、直に食あたりなどを起す様な弱いものになつてしまふのであります。これ故一週に一度か二度位は常の量よりも少し多く食べさせて、胃を擴張せしむる必要があり、併しこの場合は、食後休息せしめた後に必ず運動させるか、あ

身心を鍛錬するにはまだ色々方法がありますがいまは主なるものだけにして置きませう。

初にも言つた通り、心を鍛へるのは、早くから始めても害はありませんが身を鍊へるのは、子供の身體の健否と、年齢とを考へねばなりません、例へば鐵と硝石との様なもので、鐵の様な質ならば、忽に火に入れ忽ち水に浸して、益々堅くする事が出来ますが、硝子の様な質であると、焼いて置いて直に水に入れると忽ち粉微塵になつてしまふようになります。家庭教育者はこゝに最も留意して、然る後に鍊を加へねばなりません。

五八、抑へよ

子供は、物心づいてから、追々世の中の物事が分つて来るに伴つて、慾といふものがだん／＼増長して來ます、これがまた教育上注意すべき事柄であります。子供は、よく他家の子供の持つて居るものを見ると直ちに手を差し延ばして『ウウン、ウウン』と呻るものであります。斯う言ふ際に方つて、愛に溺れて居る親達

は、この非理な慾を鎮めさせやうとはせず、却つて、愛兒のむつがるを恐れて、他家の子供に向うて、『遣つて下さい、よい子だね、内の次郎さんが欲しがらから半分上げて下さい』と嘆願して愛兒に其一部を與らせるところがあります。斯う言ふ風で、この次郎さんが、二三回成功したものならば最早この味は忘れられんから何時も同じ手段で、お母さんを使つて他人のものを奪ひ取らうとする様になつてしまひます。また家にあつても同じことがあります。兄さまや姉さまのもので少し大きな聲で、『ヤーンウーン』と噪ぎますと、父母が『誰れが小さいものを泣かするか、なせ兄は兄だけにせぬ、小さいものは可愛がらねばならぬではないか、兄が悪い姉が悪い、早く欲しがらぬものを遣り』といふ様に、頭ごなしに叱りつけらるゝのが怖さに、兄や姉が不承無精に投げ出して呉れるのを二三回試したもので、この次郎さん、世界中のもの皆我所有なりと定めこんでしまつて、その氣髄氣儘は到底制すべからざる様になつてしまふのであります。極めて幼少なものは理否の判別がつかませぬから、説法の無用なことは、申すまでもありませんが、しかし、少し耳が開いて來たならば、その折々に、他人の物

を犯してはならぬことを説き聞かせて、追々に物に對する權利の考へを、臆げながらも、惹き起す様にせねばなりません。また、それでも聞かぬとき、または全くまだ耳の開かない時は、威嚴を以て抑へるがよいのであります。理なしに他人の所有物を私させるのは盗人根性を起させる源であります。

五九、自然に接觸せしめよ (其一)

日露戦争は上陸下の御稜威と忠勇無比なる陸海軍人の活躍と熱誠なる國民の一致によりて名譽ある終局を告げ帝國をして優に世界列強の伍伴たるを知らしめたことは大層喜ばしきことで當代の人の功績として後代の人に誇ることの出来ることと思ひます。けれども戦役に費したる金は實に十億以上を數ふるといふことであります。この十億は確に今後國民の汗水から搾り出さねばならぬことは明なことであります。尙又地位名譽を得ると同時に必要なのは金でありまして金が地位名譽と伴はざるときは猿に冠の誹を免れないばかりでなく國の前途が誠に案じられるのであります。さて口にくそ十億と簡単にいひますけれど中々大したる金



であります試に五十錢銀貨を並べて見れば一億で七百七十餘里十億で七千七百餘里地球の周りは凡そ九千八百十五里であるから假りに戦役に費したる金を十二億とすれば九千二百五十里でざつと地球に銀貨の帯をしめさすことが出来又一圓札を重ぬれば一億で凡二里十町十二億で凡そ二十七里の高さになり更に一圓札を縦に纏げば一億で三千五百四十六里十二億で凡四萬二千五百餘里となり一時間二十哩を走る汽車に乗りてこの札の上を走るも二百十五日を要するのであります誠に莫大の金で随分國民の負擔は輕くないこととありますされども又國民の全體が氣を揃へてかゝれば何の造作もないことと思ひます。何となれば我四千五百萬の國民が假に一日各一錢づゝ貯金するとすれば初年に一億六千餘萬圓を得るのでありますかやうに僅の金も之を集むれば莫大の數に達するものでありますから是非多數の人が一致して勤儉貯蓄を守ることが必要であります勿論當代の人は目の當り戦争の有様も見て居るから勤儉貯蓄の必要も深く感じ随て十億や二十億の金は十年を出でずして立派に作り出し國債を償却してしまふことは疑ありませんが前申す通り國の名譽と地位の高まるにつれ益々金のかゝることも増加する

自然に接觸せしめよ 其一

ものでありますから當代の人は獨現時の國債を償却する丈では未だ満足するとは出来ないと思ひます何故なれば若し次代の人即ち今の兒童が勤勉でなく又貯蓄の途を知らないときはそれはそれこそ國運は實に危きことに立ち至るであらうと思はれます又一身一家の上より考ふるも世継ぎが勤勉でなく節儉でないときは如何なる富豪も如何なる地位名望も忽ち見る蔭もなきものとなつた例は少なくないことであります古語に「賣家と唐様で書く三代目」といふとが有ります、これは子孫教育の方針を誤れば此の如しといふことを諷したることでございませう、されば國の上より考ふるも一家の上より考ふるも兒童には總べて勤勉節儉の習慣を付け大いに貯蓄を奨励せねばならぬことと思ひますそれについては方法は決して一にして盡せるものではないけれども兒童のときにも極幼少のときより出来る丈自然に接觸せしむるといふことは確に有効のことと思ひます特に東京その他の都會地では務めて其の場合を多くせなければならぬのであります。

自然といふことは自然物及自然現象の意味で山川草木禽獸蟲魚風霜雨雪寒暑等を總べて自然といふ。兒童は性來是等の自然に接觸するが大嗜で犬を愛し猫を愛し

鈴蟲松蟲を愛し川狩潮干狩厭上げ雪遊等其の最も喜ぶ所であります。かやうに彼等は喜ぶ所のものに向つては如何なる勞苦も之を厭はず其目的を達せざれば止みません。殊に彼等が自然に對して力を加ふれば加ふる程自然はだん／＼彼等の意の如く變るものなるを見ては、遂に勞苦勤勉は彼等の習慣となり他日大仕事をなすの根柢となるものであります。それ故學校でも成るべく色々の方法を以て兒童と自然とを近かしむる様に居ります。其一二を擧て見れば郊外教授と申して兒童を學校外に引き連れ自然に關する教授をなすところあり又學校内では花壇を作り色々の植物を季節によりて植付け兒童をして自ら其世話をなさしめて居ります。自然に觸れしむる杯といふと何かたいそう面倒の様に聞ゆれども極容易のことでは例へば朝顔種の一粒を蒔かせて其の世話を兒童自らなさせて其花を見るもよし、家禽の世話をなさしむるもよし、其他農作物園藝等の一部をなさしむるは最良のことと思ひます。田舎では一步出づれば山あり川あり田あり畑ありといふ様に兒童が自然に接觸する場合が多いけれども東京の様には人多く土地狭き所では家庭で特に注意して大いに自然を利用し兒童に勤勉の習慣を付け度いものであると思ひます

兒童を室内に閉ぢ込めて勤工場から買つた玩具をいくら與へても自然に接し自然を取り扱ふ様な面白味も出て来ません尙又勤勉によりて得たる金は其の値を知るから容易に使ふことの出来ぬものであります兒童に勤勉の習慣が付き貯蓄が出来ればそれこそ國家の前途は大磐石で一家の繁榮は疑のないことであります。

六〇、自然に接觸せしめよ (其二)

前項には兒童をして成る可く自然に近かしむることの必要なる大體を申しましたがこんどは其の中の一二のことにつき少しく精く申して見ませう。日曜日其他の休日には田舎に連れて行きたいものである田舎で目にはいるものはひろくとしたる野原や青々としたる草木、耳に聞くものは鳥のさへづる聲や谷川のうなるひびき、肌に触るゝものは生々としたる空氣や温き日光、かやうな所で育つた兒童はあまりかしこさうにも見えぬけれども、いかにものんびりとして何のくせなく其の身體といつたら體組も肉付もたくましいものが多い、然るに都會の兒童は、家から一足ふみ出せば、そら馬車だ、そら電車だ、そら自転車だ、

といふやうに目のまはるほどせはしい、遊ぶ所は狭い庭(よほど大家の庭でも田舎の自然の庭にくらぶれば狭い)。まして普通の家の庭は狭くしいものが多い、呼吸する空氣はいつも人々さいやうで、たま〜風があつて生々した空氣がくるとかと思へば、ちりほこりで目も口もあけぬやうである、かやうな有様であるから都會の兒童は伶俐で氣の利いたものが多いけれども、どうも物事にこせつく傾があつて身驗も十分でないものが少なくない。或る醫者の話に田舎の學校の兒童の身體は尋常三年以下位ではどうも不十分のものが多けれども、それ以上になると段々體格のよいものが多い、都會では之に反し尋常三年以下位はまる〜ふとりて骨組がよいものが多いが上級即ち、年をとるに従つて體格の不十分のものが多くなるといつてを、多少かういふ點もあるかもしれぬと思ひます。學校では兒童の身體のことには十分注意して居りますが、しかし一日中の大部分は家庭にあり、殊に日曜日其他の休日等は全く家庭で暮す次第であるから、家庭では成可く兒童を郊外に連れて出て自由に山川草木禽獸虫魚等を相手にして新鮮なる空氣と温き日光とに浴せしむることを勤められたいと思ふのであります。

郊外の遊は獨り身體の上に取りて効あるのみでない、兒童の精神上にも非常の影響を與へるものである。前申す通り都會では兒童の目のまはる程精神を刺撃するものが多から機敏にはなる代りに、雄大の氣象を養ふには極不適當である、それ故時々郊外に連れ行きひろくしたる田野を跋渉せしめ、天然自然の風景に接せしめて兒童の精神を休養せしむることが大切であります。

東京に育つた人などは自然の美自然の樂を餘り知らないで、遊びに行くと云へば縁日や芝居や寄席にでも行くことゝ思つて居るやうである。近頃は大分日比谷や上野へ行かると人も多くなつたやうなれども、尙一層奮發して郊外遊びを勧めたいと思ふ私の知つて居る人で次のやうな話をせられたことがある。「この間家内と女中と子供三人とに辨當を持たせて郊外遊びにやりました、夕方歸宅の後先家内に今日はどうでしたと尋ねました、家内はさつぱり面白くなかつたと答へた、次に女中に尋ねると同様の答今度は子供に尋ねると三人が異口同音におとうさん、今日はねほんとうに面白かつたよ、鳥と鳶とがけんかをしてゐましたよ、川の中に小さな魚がたいそう泳いで居ましたよ天と地とが一所になつてゐましたよ、おと

うさん山の上にとると天に手がとどくでせうか、今日の辨當はほんたうにおいしかつたよ、とさも愉快さうに話した」とかやうに兒童の樂みと大人の樂みとは趣を異にするものであります、それ故今度は反對に兒童を芝居や寄席などへ連れて行くときは一時はめづらしがるけれども、若し終日見物させたならば歸りての答は「さつぱり面白くなかつた」といふでありませう、獨り面白くないばかりでなく兒童の身體や精神の上に大なる害のあることでもあります。西洋では近ごろ夏冬の休みなどに、都會の子供と田舎の兒童とを取りかへて生活せしむることが盛に行はれ、それがため其の時にになると汽車汽船などは特に割引をして便利を計ることになつて居るさうであります、日本でもすぐにそこまで行かすとも先田舎遊び位は實行したいものであると思ひます。

六一、動植物を飼養せしめよ

兒童は動物の玩具をとかく喜びしかも其の喜びは長くつゞくものであります、例へば男の子の馬、女の子の人形の如き是等動物の玩具に對しては情を以て交際す

動植物を飼養せしめよ

るからあきないのであります、然るに誠の動物であるならば児童の自由になりま
すから、一層其の喜びは深いわけであり、尤もこゝに注意すべきは、動物を
飼はしむるには必ず自己の責任を以てせしむることである、児童は其動物の生死
存亡が自分の責任であることを知れば、其の愛し方は又格別で、これがためには
如何なる苦痛も厭はざる様になるのであります。

或る家庭での話に「家の子供は誠に腕白で外へ出ては悪しき友達と遊び、家にあ
りては萬事ふきまりで、物事を命じても實行しないで困つて居りました、然るに
ある時小鳥を買つて與へ其の飼ひ方を教へてやりました、處が大層喜んで其日か
らは教へた通り規則正しく水もやり餌もやり鳥籠の掃除も實行しました、鳥が慣
れてさへするようになったつてからは朝も早く起き、遊びに出ても歸るべき時には歸
り、泊りがけに外出する時には必ず鳥のことを誰かに頼んで行くといふ様に注
意深き性質を得、以前の子供とは一變した」と申されました、此の外動物を飼は
せて爲になつた話はいくらも聞いて居ります、さて飼はしむる動物は何がよいか
と云へば、男の子供で性の暴き不規則であると思ふやうのものには小鳥や兎のよ

うなものも適當で、性質温和にして身體も十分でないようものには犬のやうな
活潑の動物がよろしい、又女兒には兎や雞や小鳥や猫などがよからうと思ひます。
植物は動物のやうに情を以て取り扱ふことは少ないけれども児童の相手として亦
適當のものである、児童は猿蟹の話で蟹が柿の實を植ゑて果實をならせた話をき
いてさへ喜ぶものであるから、自己の責任を以て實際植物を栽培せしむれば大に
喜ぶものである、殊に果實でも出來て之をおとうさんおかあさんに差上げて一言
の賞詞でもあつたらそれこそ子供の樂は非常のことでありませう。

六一、 獨立自營の精神を養へ

嘗て私が現今教育界に令名ある某教育家の直話を聞いたことがありました、其一
節に曰く「吾が日本人ほど獨立自營の精神に乏しく、依頼心の多いものはなから
うと思はれます、先日私が或友人の所を尋ねました、これは私と竹馬の友であり
ますので直ちに其友人の書齋に通されて雑談に時を移したのでありましたが、折
柄其友人の所に數通の手紙が來たのです、直ちに披き見て嘆聲を漏らして云ふに

獨立自營の精神を養へ

は「ドゥもこれだから困る、来る手紙も来る手紙も金の無心といふ始末で友人からも来れば、親戚からも来る、僕の瘦せ腕も殆ど其勢に堪へぬといふ有様です」と、私も此の話しを聞いて大に感に打たれて歸つて来たことがありました、是は其一例であります、なほ此外の事についても是等に似寄つた例はいくらもあることゝ思はれます、是皆獨立自營の精神が足らないからの事で、人に頼寄るの結果に外ならぬ事と思ひます、尤も如何なる場合に於ても他人の力を籍らぬといふことは出来難い事でありませうが先出来得る限り勤勉もし努力もして、それで協はぬ時は初めて他人の助力を請ふもよからうと思ひますが、最初より他人の力を懐を當てにして、この世の中を無爲に送らうとするは餘り虫がよさ過ぎるといふねばならぬ、これは今後人物養成上に十分注意を拂はねばならぬ事であらうと思ふ云々」と。

噫この獨立自營心云ひ換ふれば自分の事は自分ですといふ心は實に大切な事で、人間一生の運命を左右するものといつてもよからうと思はれます、それですから幼時より出来得る限り敢爲の氣象を鼓舞すると同時に一方に於ては他人の力に依

頼するといふやうな弱い精神を除いて行く工夫を講じて行かねばなりません。この點については學校でも常に十分注意を拂つて居りますので、彼の四月に尋常科一學年に入學すべき兒童等の附添などは成るべく断て居るのも、主として以上の精神に基づいたのであります、是等も一寸考へると何でもないやうに思はれますが、よく考へれば考へるほど價値のある趣味ある問題であると思ひます、兎に角學校に初めて入るといふことは、彼等兒童に取ては、生活上、將た境遇上非常の變化であります、此際に一方の兒童は單獨に勇んで出校をするといふ其勇氣其意氣込と云ふものが已に業に根本に於て異なつてゐるのであります（尤も通學距離が遠いとか、身體に何か故障があるとかの場合別として）同じ學齡の兒童に於て、一方に以上の如き弱い氣質の子供が出来るかと思へば、他方には元氣旺盛獨立心の盛なる兒童が出来るので、此際に於ける相反したる二種の傾向は確かに基く所の主因がなければならぬ事と思はれます、それ故に私は茲に其主なる原因の一二を挙げてお家庭の御参考に供したいと思ひます。

其一は子供の知識経験を無視して世話を焼き過ぐるに起因するもの

其二是家庭に於ける示範の不完全なるによるもの
其他種々の原因のあること、思ひますが、今茲では主なる以上の二點について申
述べようとおもひます。

今日多くの家庭を見るに、ドゥモ一般に子供を餘りに子供視して、彼等の活動範
圍に立ち入り自由を束縛するの弊があるかのやうに思はれます、云ひ換ふれば大
人の考へを以て世話を焼き過ぎ子供は恰も父母の玩弄物のようになり終るといふ
ことです、このような家庭の子供に限つて無氣力となり、懶惰となり、依頼心が
増長するようになり勝ちであります、これは其一實例であります、私しよく知
つて居る或る家に一人の男の子供がりました、モウ尋常科二學年にも達して居
るに一人息子の可愛さに一家一族皆この子供を中心として、褒め囃すといふ有様
でありますから、一寸外出をいたしすすにも必ず誰か附添はねばならぬ、少し雨
でも降ると學校なども車で送り迎ひをするといふ有様でした、それですから父母
など、一所に散歩にでも出掛けるとなると、口置かずに子供に世話を焼き「ア、
ソラ危ぶない車が来るよ馬が来るよソラとぶに落ちるよ、橋があるよ」などと申

しまして子供をして少しも安心のおもひをさせないのであります、又子供が何か
氣に入つた仕事にでも取り掛らうとすると「ナニお前には出来るものですかお父
様にお出し」などといふ有様でした、これは子を思ふ親の至情で無理もない事と思
ひますが、少しく立ち入つて熟考して見ますと、是等の教育法の甚だ非教育的で
あつて却つて子供を破壊しつゝあるものであるといふことが了解出来ようと思は
れます、で前の兒童なども其結果甚だよろしくないもので遂に依頼心の多い無氣力
なる性質となり、物事に注意持續の出来ぬ子供となつたのであります。
又これはついで此の間或る保護者の方が見えられてのお話してありましたが「イヤ」
近頃は女學校入學豫備とか申しまして、學校で毎日宿題を出して下さいますので
宅へかへてやつて行くのであります、ドゥモ少し解らないと直ぐに質問するとい
ふ癖があつて困るので、自分で何處までも考へて考へぬ精神が缺けてゐて「ナ
ニ聞いた方が早いや」などといふ考へからつひ人に頼寄るといふやうに成り勝ち
であると思ひます、それですから近頃は餘儀ない質問の外は一切教へぬ事にいた
しました云々」と、これも以上の精神に協つた考へと感服いたしました。

これによつて見ますと兒童教養者はドゥアツテモ彼等兒童の智識經驗といふものを十分に認めてやつて指導監督の位置に立ち、束縛干渉の位置を避けねばならぬ事と思ひます、而して彼等兒童の出來得る事柄はなるべく之を身に行はしめて、一家の人々歩調を一つにして褒貶を行つて行きたいと思ひます。次は一家の人々の示範といふことであります云ひ換ふればよい手本を示して兒童をして之に見倣はしむるといふことです、これについて私は或る知人の實驗談を聞いた事がありました曰く「子供の躰け上にもよくないから自分はせめて自分の洋服の置處だけでも人の世話厄介にならずにしようと思つて實行に取掛て見ました、イヤ仲を六ヶしいものだ、ですからイヤ出勤といふときになると上着はかけてもらふし靴は揃へてもらふといふ始末で、家庭に於けるよい示範なるものが僅か一事でも困難であるといふことを感じました云々」と。主人始めこのやうな考へで實行を示すといふことは何よりのことであります、又家庭の事情にもよることゝ存じますので、若し之が實行の六ヶしい場合にはせめては、其理由だけでも明らかにして、これは父なるが故に斯く斯くにて差支な

けれど、汝は其位置に於て已に異なるが故に斯せざるべからずとの訓戒を與へて子供心にも納得の出來るやうに仕向けて行かねばならぬ事と思ひます。

六三、人に愛せらるゝ人を作る方法

時の古今を論せず處の東西を問はず、何れの世、如何なる處に於ても人として人に愛せらるゝことの必要なるは、いふまでもないのであります、わけて今日以後の複雑なる社會に立つて圓満なる交際を遂げ、最も激甚なる生存競争場裡に於て優勝の地位を占めて行かうとするには、どうしても人に愛せらるゝといふ美德を備へた人でなければなりません。若しも不幸にして此美德を備ふることの出來ぬ人がありましたならば、如何に學識が高くとも、如何に才能が秀でたりとも、到る處人の擯斥を受け、行くところ人の反情を買ひ、到底完全なる社會の一員として世に處して行くことは出來ないであらうと思ひます。然らば則ち如何にせば人に愛せらるゝ所の美德を備ふることが出來るか、是れぞ大に研究を要する問題なのであります、一體人に愛せらるゝとか、愛せられぬ

人に愛せらるゝ人を作る方法

とかいふことは理の問題ではなくて情の問題であります。即ち人の感情によつて或は愛すべく、或は愛せざるべく決定されるのでありますから必ずしも其理由はないのであります併しながらおしなべて見れば次ぎの様なことがいひ得るやうであります。

第一、人に愛せられぬ性質

- イ、平素憂鬱で不平をいふもの、
 - ロ、利己的で同情に乏しきもの、
 - ハ、高慢で自分ばかりえらがるもの、
 - ニ、人に接するに常に隔心あるもの、
 - ホ、好んで人の非をあげ若しくは阿諛の言を弄するもの、
- 第二、人に愛せらるゝ性質

- イ、常に快活で愛想よきもの、
- ロ、同情に富んで親切なるもの、
- ハ、よく謙讓の徳を守りて人に高ぶらぬもの、

ニ、人と交るに信を以てし、よく赤心を人の腹中に置くもの、

斯くの如く人に愛せらるゝ性質と人に愛せられぬ性質とは誰人も知悉せるところ、而して人に愛せらるゝことは又誰人も望むところでありますから、萬人皆、人に愛せらるゝに至るべき筈でありますが、事實は全くこれに反して寧ろ人に愛せられぬ性質の人の多いのは誠に不思議といへば不思議であります、併しながら仔細に其原因を探求して見ますれば決して不思議ではないのであります。如何にとなれば畢竟するところ、斯くの如く萬人の熱望するところの人に愛せらるゝといふ性質は、成長後各自の修養によつても得られないではありませぬが、寧ろ其人の幼時家庭に於ける環境の教育によつて自然に形成されるものであります。彼の既に一旦庭の多くが其良性質を養成するに相應はしくないからであります。或は幼時に於て人に愛せられぬ性質を形成してから後に於て之を矯正しようとか、或は幼時に於て全く其美質を養成してないものに對して、成長の後新たに之を養成しようといふことはなかく困難な問題であります。先づ殆ど不可能であるといつても強ち過言ではないのであります。従つて人に愛せらるゝといふ美徳を養ふ最も簡易

なる方法は、其人の幼時に於ける環境を善良ならしめ其愛情をして圓滿なる發達を遂げしめるにあるのであります。

そこで次に起つて來るところの問題は、如何にせば兒童の愛情をして圓滿に發達せしめ得るかといふことになるのであります。夫れには先づ家庭に於ける父母が熱誠なる愛情を以て兒童に對し、常に彼等をして其生活を愉快ならしめ、幸福ならしめ、纏て其愛情の根柢を形成するに至らしめることが最も肝要であります。若し夫れ此時期に於て或は家庭の不和なるが爲め父母の愛情に於て缺けることがあつたり、或は残酷なる繼母によつて逆待されることがあつたり、或は眞の愛情なき里親の手によつて冷酷なる養育を受けたりなどしたならば、兒童の愛情の萌芽は是れが爲め遂に發育せず、萎縮し枯稿して仕舞ふのであります。斯くの如く愛情の根柢を失つた兒童が他日果して能く人に愛せらるゝの人となり得るでありませうか、蓋し彼の憂鬱なる不平家の如きは多くは此種の家庭に於て養育せられたのであります。

要するに愛情の萌芽は上の如く父母の熱誠なる愛情によつて養成し得られるので

ありませんが、未だ是れだけでは十分ではないのであります。即ち其愛情が未だ對父母的、對家族的であつて對他人的の愛情とはならないのでありますから、他日社會に出で、他人と交際するに當り快活で愛想よく、赤心を人の腹中に置く底の美しい人物を作る上に於ては尙大に缺點を有するのであります。

そこで是れが救済策としては家庭と家庭との交際が最も必要であると思ひます。少くとも向ふ三軒兩隣りや兄弟叔姪の關係ある親戚や乃至知己朋友の家庭などは常に親しく往來して相互に訪問もし訪問もされ、時におもしろき事あらば語りもし、時に珍らしき物あらば分配もし、彼の世に謂ふお義理一片の交際ではなく、眞に愛情と愛情との交際をなすの必要が大にあると思ひます。斯くの如くする時は不知不識の間に於て、各自其子弟をして、他人の愛を感せしめることとなるから、結局是れによつて對他人的の愛情を養成し得るのであります。唯愛はよく愛を生ずといふことをいひますが、矢張り對他人的の愛情を養成するには、どうしても他人の愛を以てせねばならぬのであります。彼の孤立的の家庭に育つた子供がとかく利己的となり、偏狹となり、若しくは人と交るに當りて常に隔心を置く

人に愛せらるゝ人を作る方法

の風あるが如きは、確にそれに對する好箇の反證ではありますまいか、家庭と家庭とが眞の愛情を以て交際をなすことが其子弟の愛情養成上必要なることは斯くの如くであります。終りに於て一言して置きたいと思ひますのは愛情養成上一家庭に於て父母が兒童を躰けますにも、又家庭と家庭とが交際をしますにもあまり峻厳に過ぎてはならぬといふことであります、而して又あまりに姑息に流れてはならぬといふことであります、若しもあまりに峻厳にすれば兒童はむしろ恐怖の念に驅られて到底愛情は起らないであります、又あまりに姑息にすれば切角惹起したる愛情も所謂姑息の愛でありまして、結局其目的たる人に愛せらるゝといふ美德を傷くるにいたるのであります、誠に注意すべきではありませんか。

六四、子供に親の命令を守らせる秘訣

子供に親の命令を守らせる秘訣を約めて申し上げますれば先づ

- 第一、子供を口車にかけておだてること。
- 第二、自分が生んだ子だからとて、あまり無遠慮に取り扱はず、相當に尊敬の

心持を持つて取扱ふべきこと。

- 第三、父母祖父母等長上の命令が、矛盾せぬやう一途に出づべきこと。
- 第四、子供に用をさせたなら、其仕方について適當に批評を與へ、愉快と勵みとの起るやうにすること又あまりに賞めすぎぬやう、褒美なども妄りに與へすぎぬやう注意すべきこと
- 第五、子供に不相應な仕事を命令せず、成るべく平易なる仕事を命ずること、及びあまりに烈しく頻繁に命令を課さぬこと。
- 第六、子供に用を足させる代り、父兄に於ても相當に、子供の要求を満足せしむべきこと。

等となるのであります、尙ほ此の外、次の様な二項も注意する必要があらうと思はれます、即ち

- 一、父兄が前に掲ぐるが如きあらゆる注意を拂ひて、兒童に對するにも係らず、兒童には一向其の反動なく、感應なく益々親の云附を聴かず、いよゝ其悪戯を増長するが如き場合あらば、如何にして之れを矯正すべきか、換言すれば

ば、如何にして親の命令を守るに至らしむべきかとの問題がその一つであります。

さて、斯くの如き問題は如何にすべきかを申しますれば先づ第一に、其交遊する友達を吟味しなければなりません。其子供の常に出入する家庭の状況を偵察しなくてはなりません。諺にも申してあります通り、
血に交れば、赤くなる。

ものでありまして子供の善に移るは、なか／＼容易ではないにも係らず、悪いことを見様見真似いたしますことは實に恐ろしい程、機敏なるものでありますから、若し夫れ、其平常交るところの子供がよくありませんでしたならば直ちにそれらに感化せられて仕舞ふのであります。若し夫れ平素出入するところの家庭に悪習がありましたならば、直ちに其悪習に感染して仕舞ふのであります。

それでありまして、單に自己の家庭教育だけを完全にしたからとて、安心して居る譯にはまゐりませぬ、語を換へて申しますれば、前に掲げた如き問題が事實として顯れることが、決して少くはないのでありますから父兄たる者は此點

に注意を拂つて、常に良友を選び、良家庭に出入せしむることを心懸けなくてはならぬと思ひます。

二、かくて、如上申し述べました注意が十分實行されましたならば、先づ、親の命令を聽かぬやうな子供はなくなるであらうと思はれますが、尙ほ萬一にも其矯正の實があがらぬやうな場合がありましたならば其時こそは、學校の教師と協力しなくてはなりません。或は又場合によりては醫者の力をもかりなくてはなりません。學校の教師と醫者とは必しも斯の如き場合と限るべきものではなくて、平素兒童の教養上には、父兄方の相談相手として、缺くべからざるものなることは、今更改めて申すまでもなきことではあります。別けても斯る場合には必要なのであります。

元來特別な悪癖とか悪癖とかを有する兒童は、必ずや、心身の何れかの方面に故障を有して居るに相違ないのでありますから、之れを心の醫者たる教師と、身體の醫者たる所謂醫者とに御相談なさるのが最も適當の策であることは勿論であります。

六五、 兒童を従順ならしめる方法

兒童をして従順ならしめることは訓練の第一要義であります。即ち家庭に於ては父母長上に従順に、學校にありては教師先輩に従順ならしめることが出来たならば、其訓練は既に半ば以上成功したといつても強ち過言ではないのであります。が併し兒童をして従順ならしめることは、なか／＼容易なことではありませぬ。如何にせば兒童をして従順ならしめ得べきかは頗る大問題であります。そこで此大問題を解決するが爲めには幾多の研究を要することでありませうが、吾人は少くとも次ぎのやうな注意が大切であると思ふのであります。

(一) 兒童をして従順ならしめるが爲めには、家庭の人皆が従順でなければなりません。

若し不幸にして下婢が奥さまに精をついたり、母親が父親祖父母等に對して口答へをしたたり、父親が母親を蔑視して、或は其命令を取り消し、或は其非を擧げて短所を責める等のことがあつたならば其家庭に育ちたる兒童は如何にしても従順

なることが出来ぬのであります。

▲麻の中に育ちたる蓬はたすけずして直し。

で、下婢は奥様に對して従順に、母親は父親祖父母等に對して従順に、父親は母親の人格を尊重して妄りに兒童の面前に於て其非を擧ぐるが如きことなく、兄弟は又、父母長上に従順に、一家舉つて斯くの如く従順であるならば、其家庭に育ちたる兒童は期せずして従順となるのでありませう。然れども尙茲に最も大切なことは、

(二) 母親は父親の權力をからずして、自ら其子を訓誡する權力を持たねばならぬ。

といふことであります。母親にして眞に此權力を持ち得るならば兒童を従順ならしめることは、極めて容易なのであります。さて世の實際について觀察すれば、是れ又なか／＼容易なことではありませぬ。

▲泣く兒と地頭には勝たれぬ。

とは、古來言ひ古した諺であるが、誠によく其眞を穿つたものであつて、世の多

くの母達は其兒童の號泣によつて大方は前いふところの權力を放棄して仕舞ふのであります。

蓋し、號泣は初生兒にあつては、其言語であつて、これによつて其乳を要求し、其不安なるを訴へるのであるから、母たる人はよく其原因を探求してこれに満足せしめ、其不安を和らねばならぬのであるが、稍兒童が成長して、其智識が發達するにいたれば追々此號泣によつて其願望を達することに慣れ、屢々この手段を用ひて其願望をも達しようとするに至るのであります。

此時に當りて母親たるものが、其號泣に驚かされ、惶惶其命令を撤回して彼等の慾望を達せしむるが如きことあらば、兒童は茲に其味を占めて、屢々其手段を利用し、以つて母を嚇すの唯一の武器となすにいたるべく雖ては懇願變じて命令となり、却て逆さまに其の母をして己が意志に従しめんとするに至るのであります。

斯くて母親を侮蔑する習慣益々増長するにいたらば、延いては父親をも侮り、教師の命をも用ひざるにいたり、更には朋友の忠告社會の制裁も其意に介せず、遂

に國家の法律をも蹂躪するに至るのであります。抵牾の愛も實に懼るべきではありませんせぬか。

母親たるものは此點に注意して愛情に偏せず、嚴酷に失せず、常によく其號泣の原因を考へ、もし正當ならざる慾求であつた場合には斷乎として其慾求を却け、決して號泣におびやかさるゝことなく、命令の遂行をなさねばなりません。而して其號泣を止めるが爲めには、成るべく兒童に悟られざるやう、巧妙なる手段によつて、其意志を他に轉せしめるのが最も策の得たるものであります。

此他尙は兒童をして従順ならしめるが爲めには、

(三) 兒童に接するに愛憎の偏頗を以してはならぬこと。

(四) 親として子に盡すべき、義務は十分に盡し、兒童をして満足せしむべきこと。

(五) 兒童をして不従順なる行爲をなさしむべき機會を與へざるやう注意すべきこと。

等もなか／＼肝要であります。

兒童を従順ならしめる方法

六六、學校參觀の仕方

學校に行つて刺を使丁に通じたならば必ずや一先づ應接室に通されるのでありませう。そして「随意に學級を參觀するやうに」とか、「すぐ教室が面會する」とかの挨拶がありませう。とにかく教師に面會して諸般の事項を承知してから教室なり、運動場なりに出で我子の學校に於ける状況を觀察するのが得策であります。(教師がすぐに受持の學科授業があるとか、緊急の用事があつて直に面會し得ない場合は特別である)そこで教師の面會に来る間を利用して應接室で參考となるべきことを調べるのがよいのであります。

一、應接室で調ふべき事項

(一) 參觀人心得、時間割、校舎全圖等を一覽すること。
 之は參觀人が心得べき事項や、自分の子女が本日受くべき授業の時間割、自分の子供の居る教室の所在等を知るによいのであります。度々參觀する方には必要はないが、時たま參觀する方には一應見ておく事が便利であります。

(二) 學校の諸規定、教育上の諸統計を一覽すること。

大抵の學校には參觀者の參考になるやうな學校の規定例へば訓練に關する規定、(學校訓練、學級訓練、個人訓練、兒童日常の管理、兒童の作業、出欠席等) 教授に關する規定、(學用品、校外教授、教授上打合事項、成績考査等) 衛生に關する規定、(身體検査、服装、傳染病豫防消毒等) 學庭學校連絡に關する規定、(父兄懇話會、通信簿、通信誌、父兄心得等) や、教育上の統計例へば身體検査に關する統計、出欠席に關する統計等が或は表となり或は帳簿となつて應接室に備付けてあるものである。之等は、學校の大體を理解するに都合のよいのみでなく、直接子女の教育に關係するのであるから之に通曉することが大切であります。

(三) 兒童の成績物を閲覽すること。

兒童の成績物といへば、大抵綴方書方圖書手工裁縫等のは成績物であるが稀には、修身算術讀方地理歴史理科英語等の答案や兒童の手になつた文集などもあります。之は全級兒童の比較もできるが、各自の各學科不良を知るこ

とができ、又幾分か各自の發達進歩の跡を見ることができるので大に参考となるのであります。

(四) 家庭教育上参考となるべき圖書雜誌及中學校高等女學校實業學校等の規則書等を開覽すること。

前者は之によつて思はぬ秘訣を得ることもありませうし、圖らずして實行した事が多大の効果ありしことが確證されることもありませう。後者は尋常五年以上の父兄諸君には中等學校の選擇に便宜を得るでありませう、とにかく兩者の開覽は決して無益ではないと思ふのであります。

其他種々學校によつては特別に設備したのもありませう。時間の許すかぎり注意して調べたならば、應接室丈でも多大の利益を得ることを確信するのであります。應接室での調査は先づこんなものでありませうが、さて教師に面會したら何を尋ねませうか。

二、教師に面會して尋ねべき事項

(一) 學校訓練の方針、學級訓練要目について詳細に話してもらふこと。

之は學校で兒童を日本國民として仕立つる大方針であります言ふまでもなく學校教育の方針は二十三年御下賜の勅語の御趣旨に遵つてゐることではあるが、何しる圓滿高尚な話をして直に實行することは六ヶ敷いから、手近く子供に缺けて居る點或は直に兒童に行はれやすい點から一歩一歩に進めようとするのであります、そこで學校訓練の大綱が確立する次第で、又たこの趣旨の下に各學級が適當な要目を選んで訓練することになるのであります、そして學校訓練の方針は度々變更することはないが學級訓練要目は成効すれば新要目にならるのであります、でありますから學校訓練の方針を承知すると共に學級訓練要目の要旨を開置くことが必要であります、之と共に其實施の手段、現在の状況、家庭に於て其精神を遂行する手段等につきて尋ねて其打合せをなすのが大切であります。

(二) 孩の爲に兒童にさせる仕事について尋ねること。

學校では學校訓練の方針に従つて諸種の良習慣を養ふ爲に(例へば勤勞、自治、公共、義務、共同、衛生等の習慣、級長、當番等の役員があるので夫れ

夫れ其役務に服させ又大掃除、學用品の始末、履物の始末、日記記入等、其他種々注意して實行して居ることがある、之等の手段について承知して居れば家庭にてさせる仕事の種類方法、労働の過少等、身體の方面に連絡を取る上に便宜があるのであります。

以上の二項は度々參觀する方にはさほど綿密に尋ねる必要もなからうが然し改善變更は數の免れない所であるから其部分について尋ねることが必要であります。

(三) 子女の性行について教師の觀察したる點や其獎勵矯正の方法について問ふこと。

子を見ること親に如くなしで、兒童の性行については両親の方が最も詳に知つてゐるが、教師も亦多くの兒童を托つて公平に諸方面から觀察比較してゐますから、父兄方に見えぬ點が教師に見える所も決して少くないであらう。故に教師の觀察して居る所を詳に聞いて、善行の獎勵、惡癖の矯正の打合せなすがよいのであります。

(四) 身體の狀況について尋ねること。

重に姿勢(脊柱の彎曲) 視力(近視) 重聽等についてであります。虚弱のものや、病後のもの、皮膚の病患あるもの等については學校にゐる間の狀況を尋ね、之が豫防注意等について打合せすべきであります。特に身體故障の精神に及ぼす有様については大に注意すべきことでもあります。

(四) 勤惰の狀況を尋ねること。

勤惰とは出席缺席遅刻早退等をいふのであります。家庭では時間に間に合ふつもりでも、子女の道草のために遅刻することもありませう、早退させないにも一時間二時間勝手に早退することもありませう、學校では偽りは知りようがない故に勤惰の狀況について尋ねることは決して無益ではないのであります。

(六) 學業の成績について尋ねること。

即ち子女の授業の有様や、近來の學業の成績の傾向、不成績の學科、不成績の救済法等について尋ね、十分打合せをなすべきであります。

(七) 復習の方法について尋ねること。

學科、復習の方法等、身體の状況に應じ學業成績の良否に顧み、教師の意見を参考せねばなりません。殊に復習の方法に至つては種々の仕方があるので、教師の指圖を受くるのが有効であらうと思ふのであります。

以上は教師に面會して尋ねる事項で重に學校の意見子女の状況を知るためであり、まずが兒童教育は學校の一面丈ではない家庭も其一面を負はねばならぬし、特に學校に於て學んだ事柄の實習場は家庭にあるのでありますから、父兄諸君は兒童の家庭に於ける状況を學校特に擔任教師に詳しく知らせて學校と家庭との意志を疏通しておくことが大切であります。そこで、教師に面會したのを機に家庭の状況を包まず話すがよいのであります。さてどういふ事を話さうか。

三、教師に話すべき事項

(一) 家庭にて熟らるゝ主義方針について話すこと。
兒童教育の根柢は全く家庭にあるので、家庭に於ける躰方の如何は直に兒童の性行に影響を及ぼすのであります。故に何れの家庭に於いても躰上の主義

方針を確立して學校の訓練方針と相待つて、子女の教育に力めらるゝことであらうと思ふのであります。されば其主義方針を教師に話して、學校の訓練との統一を圖り、又教師をして個人訓練の上に参考せしむることにするは、必要なことであります。

(二) 子供の性行について觀察したる點其獎勵矯正の方法について話すこと。
善行と言はず、惡癖といはず、家庭に於て發見せる子供の性行については、腹藏なく教師に話すべきことであります。特に其獎勵矯正の方法に至つては、教師の批評を受け又は打合せて、學校家庭一致して子供に望むことは訓練上有効なことであります。

(三) 家庭にて子供になさしむる仕事の種類及其服務の状況について話すこと。
兒童に勤勞の習慣を養はしむると共に、家事上の智識を與へ經驗を積ましむる爲に、年齢により、體質に應じ、夫れ々家事の手傳をなさしむることであるが、其仕事の種類、服務の状況、獎勵策等について教師に話し、學校にて取れる手段と相一致せしむることにせば、其効力は大きなものであります。

(四) 身體の状況について話すこと。

身體の健否は、疾上にも學業上にも大影響のあることなれば、詳細に教師に話すことが大切であります。獨り現在に於ける身體の状況のみでなく、過去の狀態特に歴史的疾患即ち常に罹り易き病氣については教師の特に注意を乞はねばならぬ故に詳に話すべきであります。

(五) 復習及課業の状況について話すこと。

復習について家庭にて取る方針、復習の方法、復習の時間、兒童のなす様子、宿題等に對する努力等話すべきことでもあります。又一般に學業の成績を増進する爲に取る手段方法についての考案なども話すことは必要であります。

(六) 家庭に於ける家族の職業性行等の兒童に影響を及ぼす事項について話すこと。

即ち兩親、祖父母、家に居る叔伯父母、兄弟、婢僕等の職業上より、性質上より不知不識の間に偉大の感化を及ぼすものであるから、是等の人々の兒童に接する機會や其及ぼせる事項について教師に話すことは亦望む所でありませう。

す。

(七) 住所附近の状況、朋友について話すこと。

住所附近の衛生上、風紀上の事情、常に相親しうせる朋友の性行等の影響も亦教育上注目すべき一事實であるが故に其等の状況を詳にして、教師に話すべきことを望むのであります。

(八) 其他

家庭教師のこと、私塾通勤のこと、遊藝稽古のこと等疾上學業上参考になることは話すがいのであります。

要するに教師に話すべきことは、教師をして、家庭を了解せしめ、兒童を了解せしむる爲で、其に必要な事項は細大となく打明けるのがよい、教師に兒童を托する以上は、かく材料を提供し、學校訓練との關係上十分なる打合をなして、教師に思ひきつた教育を施さしめ、家庭も亦一致して其方向をわやまらぬやうに望ましいのであります。

倍て教師との打合もすめば兒女の學校に於ける實際を観察するがよい夫には先づ

教室に至つて授業の状況を観察すべきことであります。

四、教室にて兒女の状況を観察すべき事項

(一) 授業を參觀して教授の様相について観ることを。

其觀察すべき要點は、イ、教授の経過、ロ、兒童に呑み込ませしむる手段（説明、練習の方法）、ハ、教授したる事項の活用、ニ、帳簿、教科書等の使用方法、ホ、筆、鉛筆等の持方、ヘ、教授上の符號（學問上の符號や、獎勵のための符號）、ト、讀みぶり、數へ方、稱へ方等で、一は以て教授の程度を知り、一は以て家庭に於て復習監督上の参考とすべきであります。

(二) 兒女の活動について觀察すべきこと。

兒女の活動、即ち注意努力の具合、成績、表出即ち話すこと、書くこと、質問、等について、如何なる心情を以て授業するかを注意して觀察すべきことであります。之れ學業の進否は全く此の精神活動の如何によるからであります。

(三) 兒女の言語、動作、服装について觀察すること。

姿勢の良否、服装の正否、言語の明否、動作の規律的なるか、因循的なるか

等に注意して觀察すべきことである。是等は、訓練の實習如何を見るによいものであります。

(四) 他の兒女の授業の状況を觀察すべきこと。

他の兒女の姿勢、服装、言語、動作は勿論、質問、答辯成績等について觀察し、自分の兒女と比較することは自分の兒女の學業成績の程度、操行の如何を認識する一参考となるのであります。

(五) 兒女の訓練的作業に服する状況を観ること。

重に當番、級長、等に服務する状況を觀察することで訓練上決して得る所が少くないのであります。

(六) 教室に掲示せる訓練上學業上の施設について観ること。

圖書書方其他成績物及び忘物表、勤惰表、當番表、兒童心得其他訓練上の表等について仔細に觀察したならば兒女の状況を知らることができ又兒女の常に注意すべき事項の如何を知ることができるので學業上訓練上有効なことであります。

(七)

兒女の持物、教卓内の整理等について観察すること。

子女が如何なるものを持参し居るか、其整頓の如何を知ることがは訓練上大切なことであります。

五、運動場にて観察すべき事項

(一) 子女の運動の状態を観察すべきこと。

運動の種類、運動の適不適、動作の遅速等、身體の健康上に注意を拂ふべきことは大切であります。

(二) 個性の發現について観察すること。

個性の發現しやすいのは遊戯の際であります。故に其觀察をなすと共に交際の仕方について注意することも必要であります。

教室に於ても、運動場に於ても前述の諸點に注目せば、學校に於ける我子の實際を洞察することができませう、斯の如く、教師と會談し、實際を視察したならば、子女の美點、缺點を明瞭にすることを得るので家庭教育上大利益があることは確信するのであります、偕て學校參觀の爲に得たる我子の美點缺點については如何

にすべきか。

六、參觀の結末

第一法 兒女を教師の前に伴ひ來りて

美點は……父兄教師共に之を賞揚し。

缺點は……父兄又は教師が其宜からざる理由をよく説明訓戒して反省せしめ其實行を誓はしめるのであります。

第二法 帰宅後其美點を賞揚し。

缺點については、説明訓戒して反省させるか、或は作業的のことは説明訓戒を待たず命令にて行はせ、性癖に關するものは機會を見て徐々に言ひ聞かせることがよいと思ふのであります。

六七、冷水養生法の話

冷水養生の健康上に及ぼす効果は甚だ多いのであります。今その重なるものをあげんに第一冷水は、皮膚に最も適當したる刺戟物であつてその血管の機能を活

ならしめ血液の運動を盛んならしめ且つ皮膚を強固ならしめる、従つて凡百難病の原始とも謂ふべき感冒をふせぐの大効がある、第二神経系の官能を強くし精神を爽快ならしめ忍耐力を増し奮發心を起し注意力及び記憶力を増すの効がある、第三呼吸器系に就て言はんには肺臓は冷水の皮膚を刺戟するによりて反射作用を起し識らず知らず深く空気を呼吸し爲めに普通の呼吸にては働かせ得ざる肺中の部分までも擴張して呼吸作用を活潑ならしめ従つて肺臓を強壯にするの効がある、第四この法は新陳代謝の機能を盛にす即ち健康體は常温に於て冷水のために炭酸瓦斯の發生排泄を増し酸素の攝取を盛ならしむるは實驗的に證明せられたる事實である、第五冷水養生法は食慾を進め消化力を盛にする、第六或學者は「エルコグラーフ」(之はモリスノール氏の考案せる筋肉の仕事を顯す器械なり)を用ひて實驗的に冷水の能く筋力を増し疲勞に對する抵抗力を高むる事を證した、第七この法を行ふものは薄衣寒に堪へよく嚴冬風雪の間を快然闊歩するの勇に富み運動快活にして諸器官の運用も亦敏活である(以上七項は醫界の泰斗醫學博士佐々木政吉君の述べられたる冷水養生の健康に於ける効果の要略である) 冷水養生の効果

はかくの如く大であります。しかし其方法は簡易で殆んど費用を要せぬ時間も亦一回四五分に過ぎず且病氣其他格別なる體質の者の外は老幼男女を問はず誰にても行ふことが出来るのであります唯その體質に依つて其方法を異にするの注意を要するばかりであります。

佐々木博士の實驗談中にも四歳の子供を有する親にすゝめて其子によく實行せしめ効果ありしと云ふを見ても幼弱なるものにも尙施行しうべきを證するに足るのであります其方法はもとより身體の強弱に應じて異にするのであります、體質の弱き者若くは老人子供等に通例行ふには冷水に手拭を浸して全身を拭ひなるべく速にかわきたる手拭にて摩擦するのがよいのであります之を冷水拂拭法と云ひます、又身體の強きものは全身に冷水をそゞぎかけ(之れを冷水灌身法といふ)若くは冷水中に全身を投じ浴するもよし(此法を冷水投浴法と稱す)。

尙その洋細を知らんと欲する諸君は東京市神田區小川町九番地開發社より發賣する冷水養生法と題する小冊子を購讀せられるがよいのであります(定價十八錢郵税四錢)該冊子中には冷水養生法に關する學理實驗上の効果及び實施方法等に於

ける佐々木博士の詳細なる講演文學博士重野先生五十四年間繼續施行の結果殆んど天下無比の健康を得られたる實話を始め其他實施者二十餘名の實験談を載せれば健康の大切なる事を知れる人の爲に一讀の價値あるべきを信じます。

六八、脊柱彎曲に關する注意

脊柱の不正は胸椎の左右後に凸出するによりて起ります。之を稱して左彎、右彎、後屈と呼びます。

脊柱の不正は女子に於て著しく多くして、常に男子の十倍に達します。脊柱彎曲症に陥る主なる原因左の如くであります。

一、身體に抵抗力少なきこと……幼者には一般に抵抗力少なく、本症に罹り易いのであります。殊に營養の不足したるもの、腺病の者全身貧血のもの等は最も注意を要します。

二、過度の教育を施さるること……我國の小學校生徒は歐州のものに比し過度の教育を受けて居ります。然るに尙は其上に自宅の稽古をなす者もおります。

其結果は健康を害ひ、抵抗力を減じ、從ひて本症を招くに至ります。

三、不正なる机腰掛を用ふること……机腰掛の寸法構造は兒童の身長に適應するを要します。不正なる机腰掛によるために其の身を傷ふに至るは當然のことです。

四、習字の際机と腰掛とを陰距離に保たざること……これ實に脊柱の彎曲を來すべき隨一の原因であります。之を忽にすれば自然身體を屈伏せしめて脊柱彎曲の第一階梯をなすのであります。

五、椅座の行儀悪しきこと……机腰掛如何に完全なりとも兒童の寄り方にして正しからざれば必ず本症に陥るを免れませぬ。

六、身體の運動不足なること……運動の不足は身神何れにも有害なれど殊に脊柱彎曲を發するに大なる關係があります。又運動を厭ふ兒童は自然長座に傾き長座は遂に姿勢を崩さしめて脊柱の彎曲を招くのであります。

七、採光不十分なること……採光不十分なるか或は窓の方向適當ならざる時は兒童がものを見るに苦しむの餘り自然體を保つことが不正となるのであります。

す。

八、細き仕事をなすこと……細字を書するは此の主なるものであります殊に短き筆鉛筆を使用せしむるときは自然力を要することが多くて體を屈伏せしむるに至るのであります。

脊柱彎曲によりて生ずべき傷害は常に天賦の完美を傷みのみならず胸廓の壓迫せらるゝより呼吸器に障害を及ぼし循環器を妨げ頭部其他の充血若くは靜血を致し近視眼頭痛動脈等の誘因をなし、腹部の壓迫せらるゝより消化不良を來し或は便通不利を起すのであります、又神經壓迫せらるゝよりは、肋間神經痛の如き病症を發するものであります、然るに本症の初期にありては兎角輕視せらるゝ傾あり、これが後日不治の疾患を招く所以でありますから深く注意すべきことでもあります。

これを救治する方法は既に記したる各種の原因を除去するにあるも主として注意すべきは姿勢であります肩の高低ある、頭の傾ける皆脊柱の彎曲を表彰せるものでありますからこれ等の兒童は多大の注意を要するのであります。

六九 應急手當法

一、外傷

(1) 打撲傷

一、輕少なる打撲傷は、冷水にて、傷部を冷却すればよろしく、稍重傷にして皮膚暗紫色を呈し、腫起するときは、百倍石炭酸水を、脱脂綿又は、脱脂綿紗に浸して、傷部に貼し、油紙を覆ひて、縛帶すればよいのであります。打撲傷の眼部もしくは、口唇なるときは、石炭酸水のかはりに、五十倍硼酸水を使用するのであります。打撲の部位悪くして、失神、嘔吐、吐血、咯血等を起すときは、直ちに醫者に急報せねばなりません。

(2) 切傷

一、輕少なる切傷は、五十倍石炭酸水にて、洗淨し、絆創膏を貼ればよく創が稍大なるときは、洗淨沃度、保兒母末を撒布し、昇汞綿紗を貼り、油紙を

應急手當法

覆ひて縛帯するがよいのであります。

る、切創の眼瞼もしくは、口唇なるときは、石炭酸水に代ふるに、五十倍硼酸水を以てするのであります。

は、切創の口中なるときは、五十倍硼酸水を以て、たびたび含嗽せしむるのであります。

(3) 擦過創

切創の如く處理すればよいのであります。

(4) 刺創

踏貫等をなしたるときは、直ちに、異物を抜除し、切創の如く處置するのであります。

(5) 關節捻挫

打撲傷の如く處置するのであります。

(6) 關節脱臼

決して諸般の試療所謂素人療治を行ふてはなりません必ず醫師につきて、

復正の治療を乞ふがよろしいのであります。故に先づ打撲傷の如く處置し關節の動搖せざる様、支持固定して醫師に送致するのであります。

(7) 骨折

い、單骨折と、雜骨折との別があります、折骨の尖端皮表に穿出するを雜骨折といひ、穿出せざるを、單骨折といひます、雜骨折は、甚だ危険であります。先づ衣服を脱除せしむるには、健全部より始め、患部を最後に裸出せしめるのであります。若し疼痛甚だしきときは、衣服の縛帯を解綻し、或は之を剪解するのであります、骨折の徴候著るしからずとも、疑はしいときはは骨折の處置をなすがよいのであります。

る、單骨折は、先づ切創におけるが如く、處置するに、嚴重なる消毒的縛帯を施し、然る後に、厚紙木片等身邊適宜の物品を取つて、副木となし、患部に當て、更に其の上を縛纏し成可的動搖少なき運搬器を以て、醫師の家に送るのであります。

(8) 整刺

發刺疼痛ある部に確砂精を塗布し、刺棘あるを見れば、謹んで之を拔除する
のであります。

(9) 火傷及湯傷

い、百倍の石炭酸阿列布油を浸したる布片もしくは、五十倍硼酸軟膏をぬりたる
リントを患部に貼し、厚く綿花を覆ひて、繃帯するのであります。患部
空気に觸れざる時は、疼痛緩解するものであります。

る、衣服に火うつりて、火焰熄滅し難き時は、取りわへずフトン毛布等を覆ひ
かけ、或は救助者の衣服をぬきて、火傷者を纏包し、地上に倒して、轉々
せしめ、而して後水を汲み來りて、火傷者の全身に。灌注するのでありま
す。

二、出血

(1) 創傷出血

出血甚しからざるときは、切創の處置を施し、創部を壓迫するによりて止
血しがたし、血液綿狀をなして、迸出するときは、創傷の上部即ち心臟と

(2) 吐血

負傷部との間を強壓緊縛し、速かに醫師の治療を乞ふのであります。

嘔氣と共に暗黒色なる血液を吐血せる時は、閉靜なる室に仰臥せしめ、胃
部に冷器法を施し、時に氷片を嚥下せしむるのであります。而して、醫師
に急報するを要します。

四 註

- ▲一人の惡母は五十人の惡兒を生ず。
- ▲眞正の教育は父母の膝上に始まる。
- ▲惡友と交るは寧ろ友なきに如かず。
- ▲過の生する多く小事を忽にするによる。

家庭教育 子供と父母終



明治四十三年六月十一日印刷
 明治四十三年六月十八日發行

有所權著作

校訂者

瀧澤菊太郎

著者

石田勝太郎

發行者

大倉廣三郎

印刷所

三協印刷株式會社

家庭
 教育
 子供と父母
 定價金七十錢



發行所

廣文書店

振替貯金口座東京第四六八四番

東京市京橋區南橫町十八番地

世に持離されつゝある「女子技藝 梶山彬先生」が畢生の大著述



編物新書

大和綴頗美本編み方及雛形圖案六十餘面入
菊判 全一冊 金五十錢 送料八錢

世に編物の指南書として公にせられたるもの數多あれども大抵は理論にのみ走りて實際の應用に適するものは稀なり。本書は梶山先生が其の缺陷を補はんため自ら筆を取られ實際に應用して少しも不便なく自由に望みの物の出來得るやう懇切丁寧に記述せられたるものなり。殊に製作上困難を感ずるが如き所には六十餘面の編み方の圖を挿入し且つ所々に雛形圖案を添えたるなど他の指南書には恐らく比なかるべし。



刺繡術新書

大和綴美本編み方及雛形圖案百二十餘面挿入
菊判 全一冊 金五十錢 送料八錢

本書は梶山先生が多年授業上と實地研究との結果に基き姿勢の注意より器具、材料の撰擇及び實習の通則、仕上げ殊に製作法の如きは植物、動物、風景等の實物に付き緻密に解説せられその方法、糸の配色などには特に意を用ひられたるものなり。又運針上の必要なる所には百二十餘の「ぬひかた圖」を加へ且つ二十餘面の雛形圖案をも添えれば實習上に些細の不便も感ずるが如きこと無るべし。

本書は高等女學校技藝科教員および生徒諸媛には絶好の指南車にしてまた家庭に趣味ある技藝の蘊奥と實益に富める副産物を導くものなり。

子供を思ふ父母及び児童教育の必讀書

賜天覽

高島平三郎先生著 好評如湧第十版

兒童心理講話

クロース綴函入
頗美本菊判全二冊
正價二圓二十錢
送料金十二錢

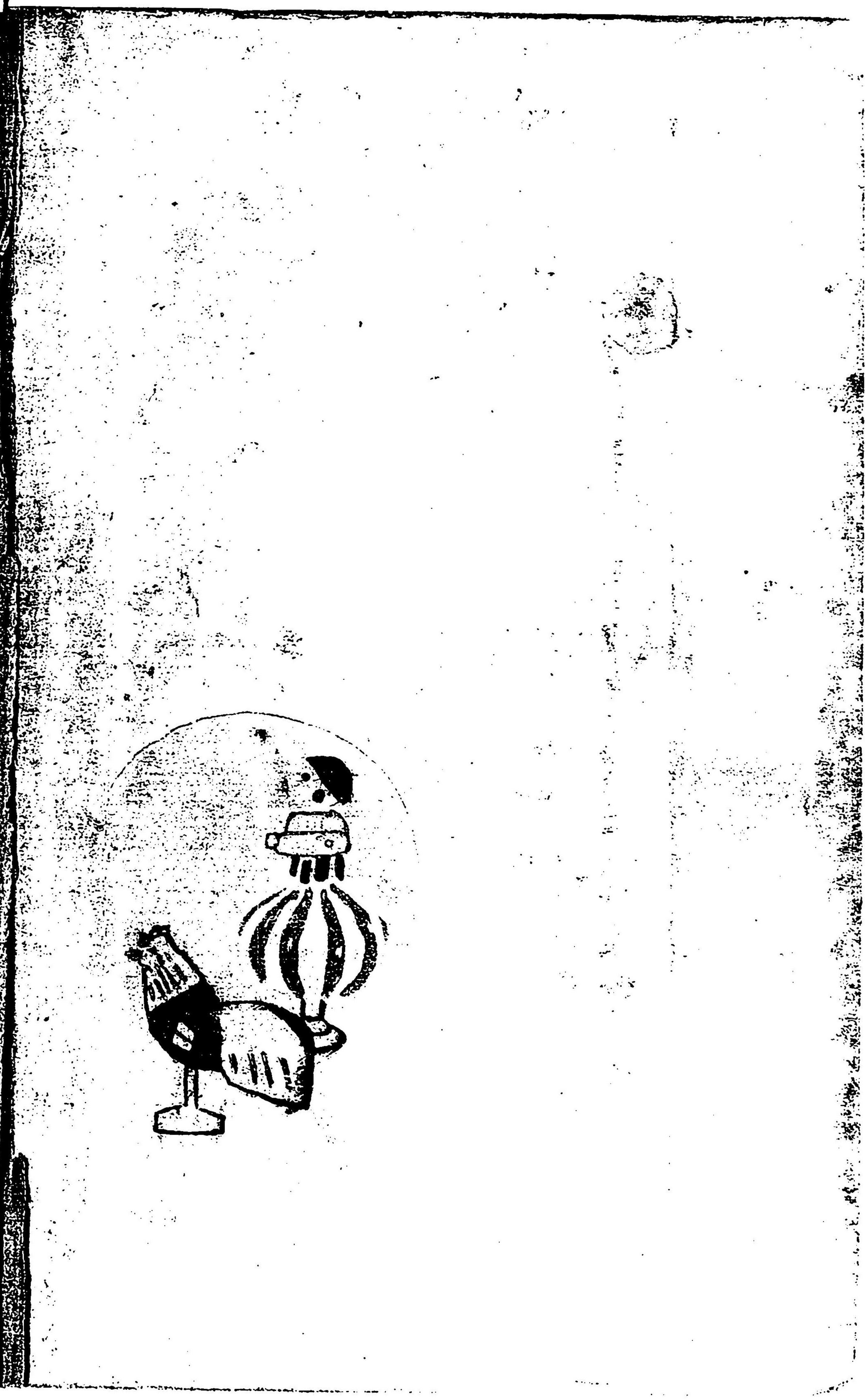
朝日新聞曰く……此書は兒童研究を應用的に説明したる書である。著者の宏博の識、精微の見方を以て左し深奥なる近世科學を一般家庭の父母に會得せらるべく平易にすらしと説明してある手並に至りては現今學者中著者の外何人も企及し能はざる所である。日本全國戸毎に一本書を備へしめたい……
時事新報曰く……本書は胎兒より青年期に達するまでの心身發達状態を年齢に應じて兒童を發達的に叙述せるもの也。著者の豊富なる學識と多方的興味とを以て通俗的に之を説き時々は洒落を用ひたるが如きは最も成功せる著書にして家庭及學校の教育に興味を有するものは必讀すべき著なり……

兒童教育研究會長 大川義行先生著

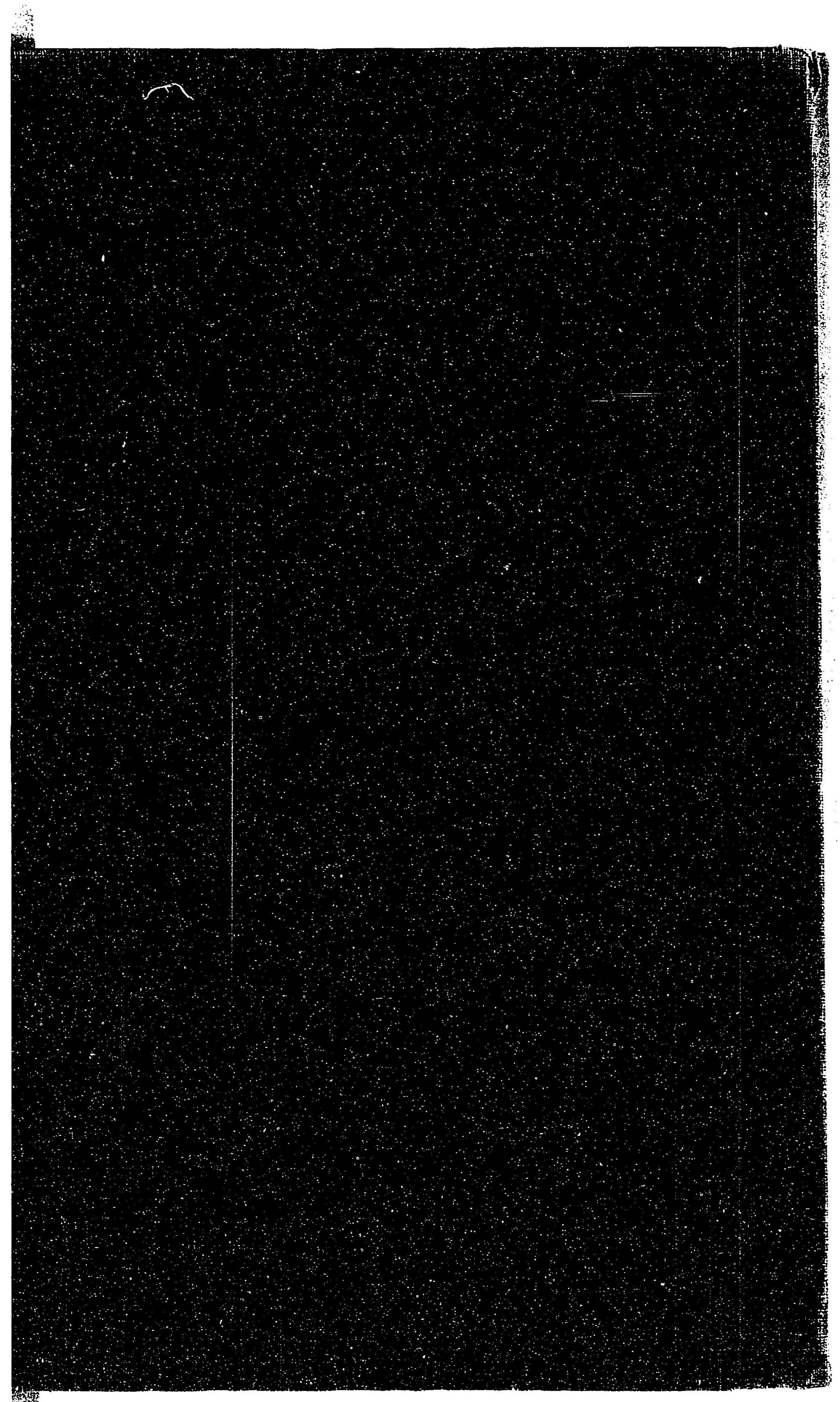
七版 兒童個性の研究

クロース綴菊判頗美本
金一圓二十錢送料八錢

子供の顔の異なることも心も又個々の特性があるされば子供を教ふるにも之を考へて教育する事は子供の父母たる人も學校の教師たる人も必要な事にて本書は子供の個々の性質を充分に研究したものである。



207
52



271

64

Ⓜ

048510-000-2

271-64

子供と父母

石田 勝太郎/著

M43

BEI-0052



